

# 街を行く

第147回 箱根 Hakone

## 勝ち組観光地のコロナ禍後



今回の箱根(写真左)はコロナ禍の最中2020年11月の頃(写真右)と大違い。大混雑はなく快適な滞在であった。

コロナ禍が収束へ向かい、マスクなしの生活が可能になった(とはいえ小生も含めてほとんどの人はマスク生活を続けてはいますが)いま、2年と4か月ぶりに箱根を訪ねました。

前回ここに来たのは2020年11月の平日、コロナ禍の真っ只中でした。「平日なので大丈夫」と思ったのは「甘々」でその大混雑ぶりに驚かされたことを憶えています。政府はその頃、「Go To トラベル」による観光業界救済策を打ち出しており、宿泊者割引や地域クーポンの割安感から観光地はどこも大賑わいだったのです。温泉旅館の予約に大変苦労し、現地のバス停は長蛇の列でタクシーも拾えない有様でした。

あれから幾度かの大流行を経て現在はどうか。当時との比較で確かめるため、わざと平日を選んでの訪問です。果たして状況は、あの頃とは大きく変

わっていました。旅館の予約は楽々。人出は前回の半分程度。バス停はかなり空いており、名所旧跡でものんびりとできました。2年前の大混雑は、コロナ禍で鬱積した需要の爆発力が凄まじかったということなのでしょうね。

これからの箱根はインバウンド客が入り、いよいよコロナ禍前の状態へと戻るのでしょうか、コロナ禍前と違う局面もあると思います。箱根の売りは温泉で、首都圏に近く、名が売れ、観光名所が沢山、正月の代名詞「箱根駅伝」などイベントも数多く、これほど恵まれた観光地はめったにありません。昨今周囲では大型ホテルや旅館の開発が目白押しで、デベロッパーは開発用地を探すのに苦労しているとも聞きます。他のほとんどの温泉地は、区域が狭いこぢんまりした湯治場ですから、インバウンド客をなかなか呼び込めず家族旅

行に選ばれにくいです。その意味で“勝ち組”の条件が整った箱根は観光マーケットでやすやすと戦っていけるのでしょうか、油断は禁物だと思いますよ。2年前と今の箱根を比べ分かったのは、民衆の好みは日々変わるといってもあるのですから。これからも更なる付加価値を見つけてください。

### 南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。